

## 「自由にする」

2014年06月20日

学生時代、フランクルの『夜と霧』を読み、人間をここまで貶められるものかと驚愕した。そして、このような惨劇が行われたアウシュヴィッツに行ってみたく思っていた。後年、友人の南吉衛牧師がドイツ・ケルンの日本人教会へ派遣され、私は「共に歩む会」を担当した。南牧師に案内してもらい、念願のアウシュヴィッツ行きが実現した。まず、映画で幾度も見たビルケナウの門で、列車が到着し、生と死に選り分けるプラットホームの悲劇をリアルに想起した。収容棟は規則正しく並び立ち、肅々と殺人工場になった様、爆破されたガス室に慄然とした。それから、アウシュヴィッツに行った。門には、大きくはないが「ARBEIT MACHT FREI（労働は自由にする）」と書かれた文字が高々と掲げられていた。この言葉を『夜と霧』の写真で見た時、ヨハネ福音書8章32節の「真理はあなたたちを自由にする」という言葉をもじったものだと思った。

主イエスはピラトの尋問を受けた時、「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に來た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く」と答えている。世に真理などないと思っている世慣れた政治家・ピラトは主イエスに「真理とは何か」と小ばかにして問うている。主イエスが表した真理は「神はあなたを愛している」ということである。神に愛され、神に生の根拠があることを知る者は、この世の全てから自由になる。それは自分だけを求めず、共に生きようと愛する自由である。この「真理は自由にする」を「労働は自由にする」と言い換え、十分な食事を与えず強制労働をさせ、無用になった者をガス室で殺し、焼却していった。美しく希望ある言葉で死を強制していった。

福島県双葉町には「原子力 明るい未来のエネルギー」という看板が掛けられている。ところが、双葉町は人の住めない無人の町になっている。原子カムラの住民たちは、原発は安価で、環境に優しいなどと安全神話を押し付け、明るい未来を想像させてきた。しかし、実態は人々を無限に苦しめ、最大の環境汚染をもたらした。過疎地に莫大な経費をつぎ込み、人々の心を買収してきた結果である。買収された人々を非難することはできない。私たちは安全神話に乗り、原発電力の恩恵を受けてきたからである。今は、苦しみを分かち、脱原発に共闘することである。

原発事故の汚染水を「完全にコントロールしている」と豪語してオリンピックを呼び寄せた安倍首相のウソは誰もが聞いている。彼の「国民の命を守る」という言葉を信頼できるであろうか。本当に国民の命を守るなら、集団的自衛権行使を強弁して戦争の準備をするより、年に3万人もいる自死者、「無敵な人」と自称して虚無的な犯罪に走る若者たちに生きる場と希望を与えることが先決のはずである。

言葉の真実が失われている現実、ナチズムの言葉のウソと重なる。人間の生存と尊厳を確保する言葉の回復が求められる。主イエスの「神はあなたを愛している」という真理に立つ時、共に生きる道が開けてくる。これに望みをかけることが信仰である。